

訪問用紙を用いた肺静脈隔離術の統一した看護を試みて(カテナースの立場から)

【はじめに】当院は循環器専門病院として心臓カテーテル検査・治療は、2013 年度 1740 件、肺静脈隔離術(以下、PVI)は 191 件、その他不整脈検査・治療は 83 件行われている。当院では 2005 年より PVI が始まった。治療手技の変化に伴い看護も少しずつ変化してきている。現在は、4 泊 5 日の入院で行っており、クリニカルパスも導入されている。担当カテナースは訪問用紙を用いて術前訪問を行い、治療経過などを説明しコミュニケーションをはかり、不安の軽減などに努めている。以前から訪問用紙は作成していたが細かい内容は記載されていないためか、使用していないスタッフがいる。ナースの経験年数にもばらつきがあり、訪問時の統一した説明が行われていない現状がある。また、病棟ナースからの説明も統一されておらず、治療後の説明もスタッフによって内容が異なり、患者の戸惑いがみられることがある。そこでまず、訪問用紙の見直しをし、カテナース全員が使用することによって統一した説明ができる。また用紙として可視化することにより、病棟ナースとの共通理解を得られるツールに成ると考えた。【目的】看護師の経験年数に関わらず、カテ・病棟ナースともに統一した説明が出来る訪問用紙の作成を行う。【方法】従来の説明用紙の見直しを行い、訪問時に患者からよく質問される内容や治療後の注意点などを PVI の術者と相談し、訪問用紙の改訂をする。【結語】訪問用紙を使用することにより、統一した PVI 看護の標準化につながり、より安全安楽な治療と患者の不安軽減につながると考える。